

2022年度（令和4年度）自己評価

本校は、学校教育法および同施行規則に則り学校評価制度を制定し、文部科学省が定める「専修学校における学校評価ガイドライン」に沿って「学校評価」を実施しております。「学校評価」を実施するに当たり、最初のステップとして基礎的な資料を得るために毎年2月に生徒及び保護者へのアンケート調査を行っています。アンケート結果を踏まえて自己評価を実施しております。自己評価につきましては、学校評価委員会で議論し、教育活動の一層の向上につなげるよう努力しております。

前年度[2021年4月～2022年3月]の学校運営・教育活動等について教職員による自己評価を下記に公表致します。

関西外語専門学校 国際高等課程

学校長 花畑 好一

1. 本校の教育目標、教育方針

「生きた英語力」を身につけて国際舞台で活躍できる「真の国際人」を育成することが本校の教育目標です。このためには、グローバル化社会の中で、幅広い教養と自分の考えをもって主体的に生きることができるよう教育を施しています。なお、この教育方針の背後には、生徒を1人の人間として大切に育むという、法人全体の教育理念「血の通った教育の場」が脈々と流れています。

具体的な教育方針は次の通りです。

- 1) 「生きた英語力」を研ぐため、授業の中でできるだけ多く英語を使用する。
- 2) 国際力を研ぎグローバル社会に通用するよう育むため、日本人教員に加え、諸外国の教員による授業を実施することで、国際理解を深め、多様な考え方や価値観に触れさせて、多様性を受容する広くて柔軟な心を育む。
- 3) 少人数授業を大切に、ディスカッションやプレゼンテーションなどの参加型教育（アクティブ・ラーニング）を授業に取り入れ、自ら学ぶ姿勢、自分で考え発信する能力及びコミュニケーション力を育成する。
- 4) 将来進路に備えるための基本的な学力・教養教育を大切にする。
- 5) 個性と自由を尊重すると同時に、グループ・集団で活動できるよう規律、協調、コミュニケーションを大切に、互いに認め合い協力する姿勢を涵養する。

2. 2021年度（令和3年度）の重点的な取組事項

1) コロナ感染症対策

コロナ感染防止対策を実施しつつ、オンラインを活用の上で、できる限り対面での教育活動継続に尽力する1年となった。

2) 6レベルによる習熟度別クラス、少人数クラスを堅持

昨年度に引き続き6レベル展開(計12クラス)で授業を行った。また、学年クラス・英語クラスとも少人数制を堅持した。

3) 模擬国連大会の対面での実施

英語教育に加え国際教育を推進するため重点的に取り組んでいる模擬国連大会について、京都大会(京都外大西高校主催)がオンライン実施となる中、本校主催の大阪大会は対面で実施した。大阪国際交流センターで本校に加え立命館高校など計4校で実施し、生徒たちは前向きに取り組んだ。また、学内模擬国連大会についても、伝統を維持し下級生にノウハウを継承するため、感染防止に努めつつ2・3年生を対象に3月初旬に大阪国際交流センターで実施した。

4) 英語スピーチコンテストの実施

例年、本館2F大教室に一堂に会して実施している英語スピーチコンテストについて、会場に入る生徒をコンテストの途中で入れ替え、密を避ける形で実施した。半数は同会場でスピーチを聞き、半数はHR教室でオンラインを活用しスピーチを聞いた。制限のある中での取り組みであったが、感動的なスピーチコンテストを実現することができた。

5) 3年生の多様な進路に対応する受験指導

3年生41名の希望進路に対応し、集中科目を開講するとともに、大学・短大・専門学校の総合選抜型入試(旧:AO入試)・グローバル入試、推薦入試(指定校・公募制)、一般入試の受験指導に加え、海外留学、就職など多様な希望進路に対応し受験指導を行った。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

(1) 教育理念・目標など

教育理念 目標など	評 価 項 目	評価
	教育理念が定められているか	4
	教育目標が明確にされているか	4
	教育目標は社会のニーズに適しているか	4
	教育目標や方針は生徒・保護者・社会に周知されているか	4
	教育方針は教育目標を実現する適切なものとなっているか	4
	社会のニーズを踏まえた将来構想が描けているか	4

【評価 4. 適切 3. ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切】

コメント・課題・改善事項

2021年度は引き続きコロナ感染防止に努めつつ教育活動に尽力する1年となった。2021年度はコロナ感染症対策のため国際的な人流に制限が多かったが、多くの国で入国制限が緩和・解除されつつある。2022年2月にはロシアがウクライナに軍事侵攻し国際社会に大きな衝撃を与えた。しかし、この両者は、結果的に世界経済や国際

社会の結びつきの強さを明らかにした。短期的にはグローバル化を抑制する事象が発生することがあっても、長期的には経済・金融・社会のグローバル化が今後勢いを増すことが見込まれる。英語の必要性は高くなっており、ICT・AIの進展と相まって世界共通語としての英語の重要性はさらに増すものと考えられる。

本校は専修学校高等課程という強みを活かして、外国人教員の授業を数多く配置し、カリキュラムを柔軟に編成し、学習言語としての英語力を強化しつつ「コミュニケーション・アプローチの英語教育」、そして実践的な国際教育を推進している。本校の教育方針及び教育は、時代の先端を行くものと評価できると考えている。

(2) 学校運営

学校運営	評価項目	評価
	教育目標に沿った運営方針が策定されているか	4
	事業計画・中期計画に沿った運営が実施されているか	4
	適正な教育活動を実施するため、職員会議は定期的に実施されているか、また、有効に機能しているか	4
	人事・財務などの意志決定組織は整備されているか	4
	地域社会等へのコンプライアンス体制が整備されているか	4
	教育活動に関する情報公開は適切になされているか	4
	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

【評価 4. 適切 3. ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切】

コメント・課題・改善事項

今後とも日本がグローバル化の流れに乗っていくことを前提に、実践的英語力・国際力の必要性に対応するため、運営方針・事業計画・中期計画は教育目標に沿って策定している。

職員会議は原則、週1回実施しており、教職員が適切に学校運営や教育活動に携わることができるように情報の共有化を図り、諸事項を調整の上、諸課題に対応すべく意思決定を行っている。

諸規程については法人全体に関わる規定は法人本部及び総務部が管轄管理し、本校教育にかかわる規程については本校で案を策定し、理事会等の上部機関の承認を経て決定されている。規程策定においても日常の学校運営においてもコンプライアンスには常に留意している。

情報公開については、ホームページ、学校案内・募集要項などの印刷物において適宜行っている。

なお、情報システム化、事務の効率化は順次進めている。iPad 端末による出席管理システムは2015年度当初より導入し、生徒数・クラス数増に対応した。導入7年目となり、不具合が生じることもあるが、適切に対処しつつ基本的には順調に運用している。今後とも、システム化・効率化は推進して行きたい。

(3) 教育活動

教育活動	評価項目	評価
	教育目標に沿ってカリキュラムが編成されているか	4
	専修学校設置基準や教育目標に沿った授業時数や学習時間が確保されているか	4
	カリキュラムは体系的に編成されているか	4
	カリキュラムは時代の変化や現実社会の必要に対応しているか	4

授業計画及び内容は、現実社会との関連したものとなっているか	4
少人数授業は堅持されているか	4
授業の多くは、参加型授業（アクティブ・ラーニング）となっているか	4
「生きた英語」教育は施されているか	4
国際教育は施されているか	4
模擬国連の指導は実施されているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
海外研修・ホームステイなどの国際交流プログラムは計画・実施されているか	3
情報教育は実施されているか	3
衛生・保健教育は実施されているか	3

【評価 4. 適切 3. ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切】

コメント・課題・改善事項

カリキュラムは、本校教育の最重要事項として、検討・改善を重ねている。「生きた英語」教育、国際教育は、各教科の基本事項・重要事項をおさえつつ、現実社会で起こっている諸問題・諸課題を取り上げて授業を展開している。大学入試改革・大学入試共通テストに対応すべく2・3年生を対象に「選択必修科目」を新たに設けており、生徒個人の進路に応じて科目選択を可能とした。また、2022年度の高校新学習指導要領スタートに合わせて本校においても教育課程を検討し改訂した。

授業方法においては、教員が一方的に知識を教える従来型の教授法（講義型授業）でなく、生徒が自ら考え発信するスタイルの授業を重んじている。少人数制の参加型授業（アクティブ・ラーニング）を数多く実施し、現実社会で起こっている諸課題についてディスカッションやプレゼンテーションの機会が多いこともあり、生徒アンケートで「授業が楽しい。」と答える生徒が多く、8割以上の生徒が「世界のことや国際的なことをこの1年でたくさん学んだ。」と回答し、9割近くの生徒が「授業は自分にとって有意義で、多くのことを学んでいる。」「授業のおかげで、この社会やいろんなことに興味を抱くようになった。」と答えている。一方、科目によっては文科省が定める高校の学習指導要領に則った分量を授業で取り扱う必要上、講義型授業も実施している。なお、感染拡大時に一時的にオンライン授業に切替えたが、オンラインによるアクティブ・ラーニングの困難さを痛感した。

英語教育は習熟度別クラス編成を採用し、集中授業では選択制で個人の学習ニーズや興味に沿って履修できるようにしている。本校独自の英語カリキュラムにより8割の生徒が「昨年の4月に比べて自分の英語力は向上したと思う」と答えている。なお、習熟度別クラス編成・選択制科目実施のためには膨大な出席・成績に関わる事務が発生していることも付記しなければならない。

模擬国連大会は2020年度に引き続きコロナ感染症の影響を受けた。関西高校模擬国連大会（京都大会）はオンラインでの実施となり、双方向コミにケーションが困難な中で参加生徒たちは全力で取り組んだことを評価している。本校主催の模擬国連大阪（大阪大会）は第7回目の開催であったが、本校のほか立命館高校など計4校の参加となった。「The Social Impact of Covid-19 on Children（コロナ感染症が子供に与える社会的影響）」という極めてオンタイムな議題について議論した。今回はHealth & Sanitation、School Education、Children's Safetyという3つのトピックを取り上げたが、生徒たち自身が日頃体験している議題であったこともあり、活発で有意義な議論を活発に行ったことを評価している。

集団での海外渡航が事実上できなかったため海外研修旅行、ホームステイ・プログラムは中止を余儀なくされた。代替プログラムとして9月に北海道研修旅行を企画したが、コロナ感染拡大のためやむを得ず中止した。代替の宿泊研修として1月初旬

に志賀高原スキー研修（長野県）を実施した。研修直後に第6波が発生したことを考えると、この時期に宿泊研修を無事実施できたことに胸をなでおろしている。

（４）生徒指導・進路指導

生徒指導 進路指導	評 価 項 目	評価
	基本的な生活習慣の確立のための取組が行われているか	4
	基本的な学習姿勢の確立のための取組が行われているか	4
	生徒・保護者からの相談体制は整備されているか	4
	いじめ防止対策が施されているか	4
	学校の秩序を維持するための取組が行われているか	4
	進路説明会や進路のための情報提供は行われているか	4
	大学受験模試は実施されているか	4
	進路のための生徒面談は行われているか	4
	進路のための三者面談は行われているか	4
	受験対策指導は行われているか	4

【評価 4. 適切 3. ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切】

コメント・課題・改善事項

本校は、一定量の宿題を課し、予習復習を基本とする教育を実施している。コロナ禍による制限多い環境下、生徒の多くが基本的な生活習慣・学習習慣を確立していると評価している。但し、思春期の特徴でもあるが、中にはサポートや指導を必要とする生徒も在籍しており、クラス担任を中心に指導・ケアしている。臨床心理士や保健室看護師によるカウンセリングを受けた生徒もいた。いじめ防止対策については少人数クラスの特性を活かし教職員が生徒に目を配り、早期発見・早期対策に努めている。

進路指導は、少人数教育の特徴を活かして、生徒個人の希望に対応するため、生徒面談、三者面談など1人当たりの生徒に時間をかけて指導している。情報提供のためには2021年度も大学・専門学校の教職員を招いて分野別説明会を実施した。また、ホームルーム等を利用して将来進路について考える取り組みを行った。海外留学については台湾進学ゼミなど専門の教職員による説明会を実施するとともに、教職員による留学指導も実施した。なお、春休みや夏休みには大学・専門学校等のオープンキャンパスに積極的に参加するよう指導している。また、天王寺という地の利を活かし、授業終了後に近隣施設で実施される進学イベント参加も促している。

（５）特別活動等

特別活動 等	評 価 項 目	評価
	新入生歓迎プログラムがあるか	4
	生徒交流活動が実施されているか	3
	伝統文化活動あるいは芸術鑑賞は実施されているか	4
	課外活動は実施されているか	3
	防災教育・訓練は実施されているか	4
	学外でのコンテストやイベントに参加しているか	4

	生徒会は機能しているか	4
	卒業生を祝福するイベントは実施されているか	4

【評価 4. 適切 3. ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切】

コメント・課題・改善事項

アットホームな校風を維持し、学年を超えた生徒間交流を促進する努力は課外活動・ハロウィンパーティを中心に毎年実施している。2021年度はコロナ感染拡大の影響で延期実施となったが7月にUSJでの交流会、10月にオンラインを活用してハロウィンパーティを実施した。

国際人とは、世界のことを知るばかりでなく、自国（日本）を知り「自国（日本）を語れる人」であり、同時に芸術的な素養も大切であると考えている。このため、伝統文化活動あるいは芸術鑑賞を毎年実施し、日本の伝統文化や芸術に接する機会を提供している。2021年度は劇団四季の「リトルマーメイド」を鑑賞した。防災教育については2月に防災教育専門家を招いての研修会を実施した。また、教職員を対象にAED使用訓練、避難梯子使用訓練を実施した。

(6) 学修成果

学修成果	評価項目	評価
	英検の合格状況はどうか	4
	TOEIC・GTECのスコアはどうか	4
	文章検定の合格状況はどうか	4
	英語偏差値は伸びているか	4
	大学等への進学状況は希望に合致しているか	4

【評価 4. 適切 3. ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切】

コメント・課題・改善事項【要改訂】

過去6年間の卒業生の実績詳細は学校案内に記載している。2021年度卒業生の進路については、ほぼすべての生徒が希望進路を実現した。希望進路実現に必要な英語力について、英検では82%の卒業生が2級・準1級・1級に合格している（準1級・1級では23%）。英検を受験するように指導しているが、2級未合格の生徒が受験しない事例も発生している。英検は生涯資格であることを考慮すると、高校卒業までに2級・準1級に合格することは生徒個人の将来にとって有益であると考えられる。このため、受験しやすい環境を整えるため本校校舎を準会場とするなど対策を検討したい。

(7) 生徒支援・学費・奨学金

生徒支援	評価項目	評価
	就学支援金の紹介や受給手続きはできているか	4
	大阪府授業料支援補助金の紹介や受給手続きはできているか	4
	大阪府育英会の紹介や受給手続きはできているか	4
	日本学生支援機構・予約奨学金の紹介や受給手続きはできているか	4
	その他の奨学金等の紹介や受給支援はできているか	4
	保護者との連携はできているか	4
	担任教員等による生徒支援はできているか	4

	臨床心理士による生徒支援はできているか	4
	卒業生への支援体制はあるか	4

【評価 4. 適切 3. ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切】

コメント・課題・改善事項

就学支援金、大阪府授業料支援補助金はさくら連絡網でも随時案内している。また、学校でもオリエンテーション段階より説明する機会を設け、受給手続きについても適格に実施している。なお、所得など条件により受給金額が異なる複雑な制度であるため、プロジェクターを使って視覚でもわかるように説明しており、保護者からの問い合わせにも大阪府に相談しながら的確に対応している。保護者との連携についてはPTA総会（年4回実施）を実施し、担任教員を囲んでの食事会や授業参観、分野別進路説明会など教育活動を保護者に理解していただける機会を設けている（ただし、2021年度は感染防止のため担任を囲んでの食事会は実施できなかったため、2022年度より学級PTAを導入することとした）。また、必要に応じて担任教員より保護者に連絡し、保護者の協力を得つつ指導できるよう努めている。高校生活を支援するため臨床心理士による面談を全校生徒対象に実施した。なお、卒業生支援については、大学編入のための受験支援や留学支援などを行っている。実際、特に用事がある訳でもないが、卒業生がしばしば本校を訪れて頑張っている姿を見せてくれている。なお、校友会・同窓会組織の立ち上げが課題となっている。

(8) 教育環境

	評価項目	評価
教育環境	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
	防犯・防災に対する体制は整備されているか	4
	コロナ感染症対策は適切に実施されているか	4

【評価 4. 適切 3. ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切】

コメント・課題・改善事項

施設・設備について、2014年後期より別館（全面的に耐震補強及び内装外装を施し新築に近い仕様の校舎）を使用しており、少人数授業に適した教室数を十分確保でき、学年単位で授業や諸活動ができる大教室も確保している。各階に防犯カメラを設置しており、校舎入口に受付を設けて外部侵入を防いでいる。守衛が校舎を定期的に巡回することで生徒の安全管理に努めている。なお、2021年度はコロナ感染防止対策を重点的に実施した。登校時の検温・手指の消毒に加え、教室などの窓の常時開放、サーキュレーターによる校舎・教室の換気・冬季の加湿を徹底し、放課後には教職員で施設設備の消毒を実施した。その結果、幸いにして学内での感染事例は発生しなかった。

(9) 生徒の受入れ募集

	評価項目	評価
生徒受入募集	中学校等接続する機関に対する情報提供等の取組は行われているか	3
	ホームページでの情報提供は行われているか	4
	学校案内・募集要項等の印刷物での情報提供は行われているか	4
	オープンキャンパスでの情報提供は行われているか	4
	生徒募集活動において、資格取得・進学状況等の情報は正確に伝えられているか	4

	生徒納付金は妥当なものとなっているか	4
	オリエンテーションは実施されているか	4
	入学前学習は実施されているか	4
【評価 4. 適切 3. ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切】		

コメント・課題・改善事項

大阪府及び近隣府県の中学校への情報提供については、学校案内・募集要項・進路実績・入試合格状況など送付している。また、受験する可能性のある生徒については、在籍中学校を訪問して教育方針や指導方針、教育の概要、入試などについて伝えている。但し、教職員数の制約上、網羅する形で中学校を訪問しての情報提供はできていない。

なお、一般的な情報提供としてはホームページ充実による情報提供に取り組んでいる。帰国生受け入れ中高大を定期的に取材している外部帰国生団体より、本校ホームページは教育の趣旨や方針、特徴などを詳細かつ的確に掲載していると評価されている。学校案内・募集要項等の紙媒体、オープンキャンパスでの説明により受験・入学までに理解していただけるよう取り組んでいる。また、ホームページ・ブログ欄で教育活動や英検等合格状況の最新情報の掲載に取り組んでいる。ブログ記事も頻繁にアップし、教育への取り組みを公開している。ツイッターの公式アカウントも開設し、ブログ記事などを発信している。インスタグラムでの発信も始めた。

なお、3月末に実施している新入生オリエンテーションとは別に各入試の合格発表後に合格者オリエンテーションを実施しており、入学前までに事前学習ができるよう工夫している。

(10) 財務

財 務	評 価 項 目	評価
	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
	財務・決算書類において会計監査は適正に行われているか	4
	財務状況は適正に公開されているか	4
【評価 4. 適切 3. ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切】		

コメント・課題・改善事項

学費値上げを抑制しつつ少人数授業を維持することは学校経営にとって決して容易でないが、将来の改革や環境整備を視野に入れ適正に収支バランスを取ることに取り組んでいる。教育環境の整備・改善、情報化・システム化のための財源を確保することが課題となっている。将来展望をもって成長できるように中期計画に則った単年度計画の実現及び中長期的な財政基盤安定のために努力している。なお、公認会計士、監事により適正な会計監査を行った財務諸表をホームページ上に公開している。

(11) 法令等の遵守

法令等の 遵守	評 価 項 目	評価
	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4
	自己評価結果を公開しているか	4

	学校関係者評価の実施と問題点の改善を行っているか	4
	学校関係者評価を公開しているか	4

【評価 4. 適切 3. ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切】

コメント・課題・改善事項

学校運営や教育活動は、適正な学内手続きを経て実施しており、法令・規程順守には常に留意しており、チェック機能が有効に働いていると評価できる。個人情報保護にも細心の注意を払っている。また、自己評価・学校関係者評価は学校運営や教育活動を振り返り、改善していく良い機会と考えている。

(12) 社会貢献・地域貢献

	評価項目	評価
社会貢献 地域貢献	英語教育資源を活用した中学校教員への支援	1
	英語教育資源を活用した中学生への支援	1
	地域に対する公開講座	1
	生徒にボランティア活動を奨励、支援しているか	3

【評価 4. 適切 3. ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切】

コメント・課題・改善事項

本校の教育力（外国人教員による英語教育力）を活用して中学校の英語教育力向上に資するように、毎年、英語教員を対象に英語研修プログラム（Brush Up Lesson）を開講し、中学生を対象に英語によるコミュニケーション力向上講座を実施している。しかしながら、2021年度はコロナ感染防止のため両プログラムとも中止せざるを得なかった。現在の教職員体制では、地域住民に対して公開講座を開設する余裕はないが、教職員組織が拡充すれば将来的に公開講座開催も検討していきたい。なお、ボランティア活動についても生徒の希望に応じ個別で対応しているが、現状では生徒全員を対象とした取組みについては課題として残っている。

以上

【2022年度学校関係者評価】

学校評価に関する本校規程に従い、2022年9月17日に学校運営・教育活動に関する学校関係者評価委員会を実施しました。外部有識者1名及び保護者代表（PTA役員）3名の計4名が出席し、「2022年度（令和4年度）自己評価」について検討しました。教職員8名が陪席し、教育活動などについて必要に応じて説明しました。自由な雰囲気の中で議事が順次進められ貴重な意見が多数出されました。学校関係者評価委員会での議論を以下にまとめ公表させていただきます。

関西インターナショナルハイスクール
（関西外語専門学校 国際高等課程）
学校長 花畑 好一

学校関係者評価委員会 2022年9月17日（土）12:30～14:30 本校 B01号教室で実施
出席した学校関係者評価委員 計4名

外部有識者 1名（奈良県立高校社会科教諭を歴任。現・奈良教育大学特任講師）

保護者代表 3名

※陪席 教職員8名（校長、教頭、英語科主任、社会科主任、国語科主任、進路指導主事ほか）

事前送付資料 1）『2022年度（令和4年度）自己評価』

2）『2019-2021年度【学年末】学校診断（生徒）』（アンケート結果）

3）『2019-2021年度【学年末】学校診断（保護者）』（アンケート結果）

委員会の冒頭、外部有識者の紹介のあと、学校関係者評価委員会の趣旨及び主な議題及び委員会実施予定時間を確認した。また、参加委員、陪席教員の忌憚のない意見を交換することで、教育活動の改善につなげることにについても確認した。

議論の進め方については、限られた時間で有益な議論を実施するため、自己評価に記されている「2021年度（令和3年度）の重点的な取組事項」を最初に確認したうえで、自己評価検討の目的で議論することについても確認した。

議論した主な項目は次の通りである。

1. 教育全般
2. 英語教育
3. 社会科教育、国際教育
4. 国語科教育
5. 進路指導・受験指導
6. その他

主に上記項目について議論し、自己評価を検討した結果、自己評価は妥当であることを確認した。

なお、委員会での主な意見・コメントは次の通りであった。

< 1. 教育全般 >

外部有識者：日本の教育現場は「教授教育」中心の実践から、「学ぶ」中心の実践へ方向転換されている。今までは「どうやって教えるか」が大事で、従来は標準化された内容をいかに効率よく教えるかが学校の大きな課題とされていたが、現在は「どうやって学んでいくか」という学習者中心の学びがモデルになってきている。これは社会的背景もあり、このままでは日本が世界の先進国から取り残されてしまうという危機意識の大きな流れの中で教育改革が進んできた。

その学習者中心のモデルを考えたときに、関西インターナショナルハイスクール（以下、K. I. H. S.）の授業は先進的に学習者中心の教育を実践してきていたと思う。どのようにしたら生き活きと楽しく学べるだろうかということを考えて、その環境を作っていくことが大事だと言われている。

K. I. H. S. にはいろんな生徒が在籍しており、中学時代の成績も違えば、将来の進路も違うが、入学した生徒が生き活きと学べるいろんな仕掛けを作られていると思う。

教育界で学びへの転換が行われており、多くの学校が学びのプログラム改革に着手している。例えば、大阪の公立高校で流行っているのが、校内カフェといって、校内にカフェを設け、生徒が運営し、地域の人に利用してもらい、そこで生徒が社会の課題を考え学んでいくというもの。また、地域の NPO 法人と一緒に活動するといった例もあり、中学校でもどの教科も授業の半分はグループワークを取り入れている。今まで K. I. H. S. が先進的に取り組んできたことを他の学校も始めている中で、これからそれらとどう差別化していくか、どう新しいことを実践していくかという課題がある。

委員：K. I. H. S. の教育方針についてはすごく良いと思う。しかし、残念だったことはコロナ禍においてホームステイなどがなくなって、海外体験を通してグローバルな視野、知識を得る機会がなくなってしまったこと。

K. I. H. S. の学校の教育システム、外国人の教員が身近にいる環境は良いと思っている。進学、就職について子どもの力になれる学校であるのは確かだと思う。

委員：子どもはレベル別授業で英語をしっかりと勉強できていると感じている。もともとクラスは少人数で、レベル別の英語クラスはさらに少人数で、英語力を習得しやすく役立っているようだ。

ただ、ホームステイがなくなったことがすごく残念である。海外に出る機会があれば、違う視点を得られたかもしれない。子どもは台湾進学を目指しているが、それは台湾進学ゼミの先生が学校に来てくれたことがきっかけであった。コロナ禍でも生徒が海外を体感できる場を持ち続けてほしいと思う。

委員：子どもは当初普通の公立高校を目指していたが、志望していた高校の受験をやめたいと言い出した時に K. I. H. S. のことを知り受験した。

私は K. I. H. S. 入学当初は学校の勉強や卒業後の進学に対して不安に思っていたが、学校が楽しい様子で、自分の興味のあることを積極的に学んでいる。指定校推薦で大学進学を目指すことにしたが、目標通り自分のやりたいことができる大学を受験でき

ることになった。指定校推薦を使っても希望する大学に進学できることを多くの中学校に知ってもらいたい。

< 2. 英語教育 >

陪席教員：英語の授業について、前年度まで行っていた「文法」の授業の制度変更を行った。

上位レベルの生徒であっても基本的な文法がわかっていない場合がある。生徒が基本的な文法を習得するには従来のレベル別授業より今年度導入した学年別授業に改訂して良かったと感じている。学年別に文法を学ぶことで学年進行に従って文法事項の基盤を作っていくができる。

K. I. H. S. に赴任して3年目になるが、以前勤めていた私立の進学校では詰め込み授業、受験英語ばかりだったが、K. I. H. S. の英語教育は自分が求めている英語教育だと感じている。

陪席教員：K. I. H. S. ではいろんなバックグラウンドを持った生徒が在籍しており、海外経験があるため1,2年生で文法が出来ていなくても、Speaking や Listening の実力があるという理由で上位レベルに入る場合がある。文法については感覚に頼っているが、文法の土台ができていないため、難度の高い英文は理解できない状態となり、大学受験に対応できなくなる。文法の授業を学年別に変更した背後にはこのような事情があり、今のところはメリットの方が大きいと思っている。

陪席教員：K. I. H. S. の授業では発問を多用する。生徒が答え、生徒が解説することで、生徒同士の相互作用で理解を深めていくという効果がある。

陪席教員：授業で質問をよく投げかけ、考えさせる。間違えてもいいから、生徒に答えさせる。反応はすごく良く、お互いに良い雰囲気となっている。

陪席教員：文法の授業ではアクティブラーニングと言うより文法解説が多くなる傾向にはあるが、少人数クラスのため生徒に発問する機会がたくさんあり、生徒個人の得意不得意とするものが一般校と比べると見えやすい。答えたい生徒たちが自ら手を挙げて発言する。積極的に参加してくれる。

< 3. 社会科教育、国際教育 >

陪席教員：K. I. H. S. の社会科には、歴史的要素が強いカリキュラムと国際問題を扱う2タイプがあると思っている。第1学年にそれぞれのベーシックを学び、学年が上がるごとに応用・発展とグレードアップしていく。世界史では1年次に通史を学び、2年生ではアメリカの教材を使い、一年次に習った第一次世界大戦の時代から改めて振り返る。ここ数年、2年時の World History の授業では、アメリカの教科書を使って生徒自身に授業をしてもらおうという取り組みをしている。自分でリサーチし、スライドを作り、教員のチェックを受けて授業に臨むことになる。自分が教える側になるとより深く理解している必要があるため、自分が授業をするというプレッシャーもモチベーションに繋がっているように見える。

K. I. H. S. では生徒の能力や学習意欲、集中力に差があるが、各クラスにとりわけ頑張る生徒がいて、その姿を見て、他の生徒たちが刺激を受けている。頑張っている生徒に追いつこうとする気持ちになるようで、自分以外のだれかのやる気が相乗効果で引き上がることが良いところだと思う。「模擬国連」でも連鎖のパワーを感じる。K. I. H. S.

は学年間の壁が少ないので、下級生が3年生の模擬国連で頑張る姿に刺激を受けていて、次自分たちが参加するときの成長の機会になっている。

独自の「模擬国連」を行っている学校が増えてきているが、英語で実施することは他校には簡単に真似のできない K. I. H. S. の魅力だと思う。特色を出していくことが大事になってきている。「模擬国連」は大学のAO入試で面接官に興味を持って聞かれることも多いようだが、模擬国連以外でも生徒主体でできるイベントがあれば良いと思っている。今注目しているのが、ソーシャルビジネスプランを考える取組みで、実際に授業でもプレゼン形式で取り入れることがある。学年によって差があるが、興味を持つ生徒も多く、公式コンテストもあるようなのでチャレンジさせてみたい。

陪席教員：日本の公立高校は1クラス40名授業・講義式を基本としているため、アクティブラーニングは先生自身のトレーニングが必要となり、一部の授業では取り入れているが、授業全般をアクティブラーニングに切り替えることは難しいと思う。

K. I. H. S. の一番の特徴は、アクティブラーニングによる少人数授業で生徒のコミュニケーション能力が大きく伸びることだと思う。授業で生徒たちが社会問題や国際問題について議論しているが、家庭でもよく話しをするようになったと感じられていると思う。どの国に行っても人とのコミュニケーションが必要であり、K. I. H. S. では英語教育にだけ取り組んでいるのではなく国際的に活動できる能力を育む教育を行っている。K. I. H. S. では、同時に母語を大事にしており、漢字検定、文章検定にも取り組んでいる。

外部有識者：K. I. H. S. の教育について差別化できる点として、外国人教員が多いだけでなく、外国籍の生徒が多いことも挙げられる。この環境を生かした方がいろいろできるのではと思う。外国人教員と成績のことを話し合う姿が見られる。生徒同士の会話でも、日常的に文化の違い、考え方の違いなどが感じられ、留学したのと近い環境を感じられることが大きな強みだと思う。

「学習環境デザイン」というものがある。生徒が生き活きと学ぶための環境をどうデザインしていくかというもので、教室の席の配置等だけではなく、日々の学校行事、生徒への声かけも学習環境デザインに含まれる。K. I. H. S. の多文化環境を活かした学習をどう作り上げていくかという課題がある。

教育大学も然り、ダイバーシティ、多様性という言葉を多くの大学が掲げている。留学生が減ってきて、大学も危機感を持っているが、K. I. H. S. は多様性の先駆けになっていると思う。

余談だが、先進国の中で日本が一番授業料が安いので、日本の大学が注目されている。先進国では大学を卒業するまでにおおよそ2000万円程度の費用が必要で、学費面でもアジア圏の大学が人気となってきている。K. I. H. S. 卒業後の進学先として、アジア圏の大学への進学を考えるもの面白いと思う。

委員：子どもは英語が一番好きで、興味がある。K. I. H. S. の友人たちは、英語が話せる子が多く、もっと自分も話せるようになりたいという気持ちが強くなった。普通の高校に進学していたら海外への興味が湧いていなかったのではないかなと思う。最近ではパスポートを取って海外に行ってみたい、住んでみたいと言っている。

交換留学制度のある大学の説明会で、単に英語ができるだけでは留学は難しいと言われたが、子どもは留学を諦めず何度でもチャレンジするという考えを持つまでに成長した。大学に進学した後も夢を持って進んでくれるのではと思っている。

委員：私自身が卒業した学校は理数系だったので社会科が少なかったのですが、この学校も普通科高校に比べれば少ないと思う。しかし、学ぶ範囲は少なくとも、近代の歴史や国際問題に重点を置いて、コンパクトに良い授業をしているという印象を受けている。模擬国連も一所懸命自分の担当した国のことを調べていたので、深く考える機会になっていて、本人の今の進路にも影響していると感じている。

委員：小学校の4年まで奈良のクリスチャン系スクールに通っていたが、最大で13か国の児童生徒が在籍していた。多国籍の環境の中で、文化の違い、遊びの違い、興味の違いを経験してきた。フィジーに1、2か月程度の短期留学をし、フィジーでも文化の違いを経験してきた。

他国の文化を知ってこそ、この国のことがわかるのではないか。他校ではそういったことは、体験、勉強できるとは思えないし、K. I. H. S. の良いところだと思う。

陪席教員：世界史の授業では、毎授業後に感想を書かせるようにしている。もし自分がこの人物だったらどう思うかという観点から思考してほしい。国際問題であれば、ジェンダー問題、児童婚など、途上国のことを自分の感情で受け止めてほしいと思いながら授業をしている。

< 4. 国語科教育 >

陪席教員：入学当初から、生徒のレベルにはかなり開きがある。国語が嫌いな生徒と好きな生徒が混在していることが授業の難しいところで、試行錯誤しながら進めている。

アクティブラーニングは、きちんと文章を読めて、書く力をつけていてこそできるものだと思う。このため、文章検定などを活用して、読む力、書く力を養っていきたいと考えている。

授業では昨年度から2～3人でのグループワークを行っており、聞く側は、どんな意見であってもきちんと聞いて、その意見を認めた上で意見をまとめるよう指導している。

大学受験のためには集中科目や受験対策講座を受講するよう指導している。

陪席教員：英語の授業ではコミュニケーション力・発信力を養い、社会科の授業ではいろんな社会問題を興味を持って自分に結びつけていく。国語はそのような英語や社会の学びを支えるものでなければならないと思っている。国語を分離したただの教科のひとつにならないよう意識している。

例えば、広告の表現を考える場合、実際に広告を作ってみたり、プレゼンするよう指導しており、グループディスカッションも取り入れている。

国語は表現力だけではなく、考え方や思いやりなど、人間力を育む授業にしたいと考えている。

陪席教員：オンラインの国語の授業を見て、限られた時間に自分の言葉で好きな本の紹介をしている生徒の様子を見ることができ良かった。生徒たちはみな上手に紹介していたので感心した。

< 5. 進路指導・受験指導 >

陪席教員：K. I. H. S. の教育内容を一番発揮してもらえるのが、進路指導のときだと思う。

実践的英語力、模擬国連出場など、それだけでも大学受験を有利に進めらる。進路指導の中で、生徒たちの成長を感じる。面接練習を重ねるごとに、できなかったことができる、まとめられなかった考えを伝えられるようになっていく。

指導内容は生徒一人ひとり異なるが、理想の進路指導ができる環境が K. I. H. S. にはあると感じている。

外部有識者：昨年度3年生を担当し、進路指導をしてきた。今は大学で高校卒業生を迎える側として指導しているが、私が勤務している教育大学では卒業時に教員になるの学生は7割しかいない。他は民間企業に行ってしまう。学んだ学部と就職先は別なのだと感じる。

大学では4年のうち2年は一般教養を学び、専門教育は3, 4年生で行うことになる。畑違いの勉強をしても、大学を卒業できてしまう。大学での指導を通して学部の選択は将来の夢とは切り離して考えた方が良いのではないかと思うようになった。アメリカの大学は学部、専門に関係なく、いろんなことを勉強しなさいというスタンス。広い範囲で生徒の希望を拾いあげても良いと思う。

陪席教員：毎年面接や志望理由書が必要な受験形式で受験する生徒が多いので、そのための指導に多く時間を割いている。

国際系に進む生徒が多いが、最近は経営に関心がある生徒が多くなってきた。

K. I. H. S. の生徒には必ずアピールできる材料があるので、指導する側からしても引き出しやすい。特別入試を受ける生徒は K. I. H. S. で学んできたことを強みとしてしっかりアピールするよう指導している。

外部有識者：進路指導の際は生徒の過去にさかのぼって、指導することになる。大学に入ってから、過去に影響を受けていると感じる。

委員：息子は学部にとらわれず、自分の興味を持ったことに導いていただいた。

委員：2年生のときに三者面談して、30分以上話したと思う。普通の高校の三者面談はそんなに長くはないのかなと思う。こちらの意見を聞きつつアドバイスをしてくれる時間を多く取ってくれた。

学校にお願いしたいことは、親が子にサポートしてあげられる情報・アドバイスを学年に合わせて出して頂ければ、保護者も早くからサポートや準備ができると思う。

個人的な質問になりますが、子どもは台湾の大学に進学することは決めたが、学部はまだ決めかねている。学部を選んでから大学を選ぶ方が良いと自分では思っているが、大学を選んでから学部を考えるということでも良いのでしょうか。

外部有識者：留学先の大学によって、留学生の扱いがずいぶん違う。大学によって千差万別であり、大学の選び方で、学生生活が大きく変わってしまうことになる。

このため、留学する場合は、大学そのものを知ることが非常に重要だと思う。

委員：子どもは指定校推薦で大学に進学する選択をした。最終的にどういう職業につきたいのか考えていないようだが、英語を使った仕事につきたいとは考えているようで、大

学は国際教養学部を選んだ。やりたいことが変わるかもしれないが、4年間で自分がやりたいことを見つけてくれたらと思う。

< 6. その他 >

委員：頭髮の色のルール of 撤廃、トイレパスを作った意図などを聞かせてほしい。

陪席教員：まず、頭髮の色のことについて。多様性といわれることが多くなったが、生徒からの日常的に細かい質問を受けるようになった。その中で、生徒会が主体となって採ったアンケートの結果、撤廃してほしいという意見が大多数であったこと、髪色について学校側の判断も難しくなってきたということもあり、総合的に判断し、頭髮の色に関するルールを無くした。ただし、個性を認めたいという気持ちがあるからであって、自由とわがままは違うという話はしている。

トイレパスについて。以前から個人の体質、女子生徒の生理などでやむを得ず、授業中にトイレに行くことは遅刻扱いで許していた。このような事情とは関係なくトイレに行く生徒も中にはいた。モラルを守っている生徒とそうでない生徒を教員が線引きするのは難しい。こちらも生徒にアンケートで意見を聞き、導き出したのがトイレパス制度。

陪席教員：何年も前から、体調の悪い生徒から要望があったこともトイレパス制度導入の背景にある。

委員：先生方が生徒のためを思って考えられたルールだと分かったが、自分の子どもから話を聞いていると生徒にはまだ制度の趣旨が伝わり切れていないと感じる。生徒に制度の趣旨を再度説明してほしい。

委員：生徒募集について。コロナ禍で難しい面はあると思うが、中学校へ K. I. H. S. の情報提供をもっとして欲しい。一般的に知られていない学校だし、私自身も専修学校ということで進学に際して躊躇した経験もある。子どもを入学させて良い学校だと感じたので、もっと知ってもらいたいと思う。

学校関係者評価委員会では、自己評価について検討する中で、以上のような意見・コメントが出され、自己評価は妥当であることを確認した。

以上

「生きた英語」を学びたくて、KIHSを志願した。	よく あてはまる 62.6%	やや あてはまる 27.1%	あまり 当てはまらない 5.7%	まったく 当てはまらない 1.6%	わからない (判断できない) 3.0%
KIHSを志願した際、日本(社会)のグローバル化を意識した。	よく あてはまる 35.8%	やや あてはまる 33.6%	あまり 当てはまらない 19.1%	まったく 当てはまらない 5.4%	わからない (判断できない) 6.0%
KIHSへ登校するのが楽しい(楽しくなっている)。	よく あてはまる 40.0%	やや あてはまる 36.9%	あまり 当てはまらない 14.6%	まったく 当てはまらない 2.9%	わからない (判断できない) 5.6%
KIHSの生徒として誇りをもっている。	よく あてはまる 36.6%	やや あてはまる 32.8%	あまり 当てはまらない 17.3%	まったく 当てはまらない 2.3%	わからない (判断できない) 10.9%
KIHSの教職員は生徒の気持ちや思いをよく理解してくれる。	よく あてはまる 44.1%	やや あてはまる 38.0%	あまり 当てはまらない 9.1%	まったく 当てはまらない 1.6%	わからない (判断できない) 7.1%
KIHSの教職員は叱咤激励してくれる。	よく あてはまる 44.2%	やや あてはまる 35.6%	あまり 当てはまらない 10.1%	まったく 当てはまらない 3.8%	わからない (判断できない) 6.3%
KIHSで有意義な高校生活を送っている。	よく あてはまる 45.1%	やや あてはまる 31.6%	あまり 当てはまらない 16.2%	まったく 当てはまらない 1.6%	わからない (判断できない) 5.5%
授業が楽しい。	よく あてはまる 37.9%	やや あてはまる 40.3%	あまり 当てはまらない 16.4%	まったく 当てはまらない 1.5%	わからない (判断できない) 4.0%
授業は自分にとって有意義で、多くのことを学んでいる。	よく あてはまる 46.5%	やや あてはまる 40.0%	あまり 当てはまらない 10.6%	まったく 当てはまらない 0.7%	わからない (判断できない) 2.2%
昨年の4月に比べて自分の英語力は向上したと思う。	よく あてはまる 49.5%	やや あてはまる 29.8%	あまり 当てはまらない 11.8%	まったく 当てはまらない 3.0%	わからない (判断できない) 6.0%
外国人の先生の授業では、英語で発言する機会が多い。	よく あてはまる 54.2%	やや あてはまる 29.5%	あまり 当てはまらない 11.5%	まったく 当てはまらない 2.1%	わからない (判断できない) 2.7%
世界のことや国際的なことをこの1年でたくさん学んだ。	よく あてはまる 53.9%	やや あてはまる 31.3%	あまり 当てはまらない 10.0%	まったく 当てはまらない 0.7%	わからない (判断できない) 4.1%
授業のおかげで、この社会やいろんなことに関心を抱くようになった。	よく あてはまる 50.4%	やや あてはまる 34.9%	あまり 当てはまらない 8.5%	まったく 当てはまらない 1.6%	わからない (判断できない) 4.6%
授業で分からない点があれば、あとで先生に個人的に質問できる。	よく あてはまる 52.3%	やや あてはまる 30.7%	あまり 当てはまらない 11.3%	まったく 当てはまらない 0.9%	わからない (判断できない) 4.7%
先生は熱心に授業に取り組んでいる。	よく あてはまる 50.4%	やや あてはまる 34.9%	あまり 当てはまらない 10.1%	まったく 当てはまらない 0.0%	わからない (判断できない) 4.6%
生徒の悩みや思いを受け止め、適切なアドバイスをしてくれる先生がいる。	よく あてはまる 58.4%	やや あてはまる 26.6%	あまり 当てはまらない 5.3%	まったく 当てはまらない 2.2%	わからない (判断できない) 7.5%
担任の先生は親身に相談にのってくれるので信用している。	よく あてはまる 53.8%	やや あてはまる 26.3%	あまり 当てはまらない 6.8%	まったく 当てはまらない 2.2%	わからない (判断できない) 10.9%
先生のアドバイスは人権尊重に基づいており、体罰などはない。	よく あてはまる 74.6%	やや あてはまる 16.8%	あまり 当てはまらない 3.4%	まったく 当てはまらない 1.4%	わからない (判断できない) 3.8%
自分の将来進路について考える機会が提供されている。	よく あてはまる 60.0%	やや あてはまる 30.1%	あまり 当てはまらない 7.5%	まったく 当てはまらない 0.9%	わからない (判断できない) 1.6%
授業やHR、先生のアドバイスは進学など将来進路の実現に役立つと思う。	よく あてはまる 53.7%	やや あてはまる 31.1%	あまり 当てはまらない 8.9%	まったく 当てはまらない 0.8%	わからない (判断できない) 5.5%
卒業生の進路状況や進路実績を評価している。	よく あてはまる 46.9%	やや あてはまる 30.7%	あまり 当てはまらない 9.6%	まったく 当てはまらない 0.0%	わからない (判断できない) 12.8%
学校行事・課外活動は充実している。	よく あてはまる 27.8%	やや あてはまる 27.1%	あまり 当てはまらない 19.3%	まったく 当てはまらない 15.7%	わからない (判断できない) 10.1%
学校行事・課外活動を通じてさまざまな経験ができる。	よく あてはまる 33.6%	やや あてはまる 30.2%	あまり 当てはまらない 16.5%	まったく 当てはまらない 10.2%	わからない (判断できない) 9.6%
学校行事・課外活動を通じて生徒間の交流ができる。	よく あてはまる 41.8%	やや あてはまる 27.8%	あまり 当てはまらない 11.3%	まったく 当てはまらない 10.3%	わからない (判断できない) 8.7%
教室その他、施設は清潔であり、必要最小限の施設設備は整っている。	よく あてはまる 54.2%	やや あてはまる 29.7%	あまり 当てはまらない 10.5%	まったく 当てはまらない 2.4%	わからない (判断できない) 3.3%
防犯面の管理が行われていて、安心して学校生活を送れている。	よく あてはまる 55.8%	やや あてはまる 31.8%	あまり 当てはまらない 6.0%	まったく 当てはまらない 1.9%	わからない (判断できない) 4.5%
事務職員は親切に対応してくれる。	よく あてはまる 68.9%	やや あてはまる 21.8%	あまり 当てはまらない 5.2%	まったく 当てはまらない 1.0%	わからない (判断できない) 3.1%

KIHSを志願した際、日本(社会)のグローバル化を意識した。	よく あてはまる 32.7%	やや あてはまる 41.8%	あまり 当てはまらない 15.3%	まったく 当てはまらない 3.1%	わからない (判断できない) 7.1%
KIHSを志願した際、「生きた英語」の必要性を意識した。	よく あてはまる 61.6%	やや あてはまる 32.3%	あまり 当てはまらない 2.0%	まったく 当てはまらない 2.0%	わからない (判断できない) 2.0%
KIHSの方針や教育活動全般について保護者として賛同している。	よく あてはまる 49.5%	やや あてはまる 36.4%	あまり 当てはまらない 8.1%	まったく 当てはまらない 1.0%	わからない (判断できない) 5.1%
KIHSに子どもを入学させてよかったと思う。	よく あてはまる 58.6%	やや あてはまる 31.3%	あまり 当てはまらない 5.1%	まったく 当てはまらない 1.0%	わからない (判断できない) 4.0%
KIHSの教職員は生徒の気持ちや思いをよく理解してくれるようだ。	よく あてはまる 46.5%	やや あてはまる 30.3%	あまり 当てはまらない 8.1%	まったく 当てはまらない 2.0%	わからない (判断できない) 13.1%
KIHSの教職員は生徒をよく叱咤激励しているようだ。	よく あてはまる 34.3%	やや あてはまる 34.3%	あまり 当てはまらない 12.1%	まったく 当てはまらない 5.1%	わからない (判断できない) 14.1%
KIHSで有意義な高校生活を送っているようだ。	よく あてはまる 49.5%	やや あてはまる 37.4%	あまり 当てはまらない 9.1%	まったく 当てはまらない 2.0%	わからない (判断できない) 2.0%
授業は楽しいようだ。	よく あてはまる 39.4%	やや あてはまる 47.5%	あまり 当てはまらない 7.1%	まったく 当てはまらない 1.0%	わからない (判断できない) 5.1%
有意義な授業が多く、多くのことを学んでいるようだ。	よく あてはまる 42.4%	やや あてはまる 44.4%	あまり 当てはまらない 5.1%	まったく 当てはまらない 1.0%	わからない (判断できない) 7.1%
KIHSに入学してから英語力は向上したようだ。	よく あてはまる 56.6%	やや あてはまる 34.3%	あまり 当てはまらない 4.0%	まったく 当てはまらない 0.0%	わからない (判断できない) 5.1%
外国人の先生の授業では、英語で発言しているようだ。	よく あてはまる 53.1%	やや あてはまる 27.6%	あまり 当てはまらない 6.1%	まったく 当てはまらない 0.0%	わからない (判断できない) 13.3%
授業で分からない点があれば、後で先生に個人的に質問できるようだ。	よく あてはまる 39.4%	やや あてはまる 34.3%	あまり 当てはまらない 9.1%	まったく 当てはまらない 4.0%	わからない (判断できない) 13.1%
この社会や世界のことに関心を持つようになったようだ。	よく あてはまる 46.5%	やや あてはまる 30.3%	あまり 当てはまらない 15.2%	まったく 当てはまらない 0.0%	わからない (判断できない) 8.1%
先生は熱心に授業に取り組み、よく指導してくれているようだ。	よく あてはまる 48.5%	やや あてはまる 35.4%	あまり 当てはまらない 4.0%	まったく 当てはまらない 1.0%	わからない (判断できない) 11.1%
先生は、生徒の悩みや思いを受け止め、適切なアドバイスをしてくれる。	よく あてはまる 40.8%	やや あてはまる 32.7%	あまり 当てはまらない 5.1%	まったく 当てはまらない 3.1%	わからない (判断できない) 18.4%
保護者として、担任をはじめとして教職員に相談がしやすい。	よく あてはまる 38.8%	やや あてはまる 36.7%	あまり 当てはまらない 8.2%	まったく 当てはまらない 1.0%	わからない (判断できない) 15.3%
担任は、生徒の個性や資質を踏まえて、適切な指導をしている。	よく あてはまる 43.3%	やや あてはまる 29.9%	あまり 当てはまらない 8.2%	まったく 当てはまらない 2.1%	わからない (判断できない) 16.5%
以前と比べると、子どもの学習意欲が高まり学力が向上している。	よく あてはまる 42.4%	やや あてはまる 30.3%	あまり 当てはまらない 17.2%	まったく 当てはまらない 3.0%	わからない (判断できない) 7.1%
子どもの素質や希望を受け止め、適切な進路指導がなされている。	よく あてはまる 37.4%	やや あてはまる 31.3%	あまり 当てはまらない 6.1%	まったく 当てはまらない 3.0%	わからない (判断できない) 22.2%
卒業生の進路状況や進路実績を評価している。	よく あてはまる 39.4%	やや あてはまる 38.4%	あまり 当てはまらない 7.1%	まったく 当てはまらない 1.0%	わからない (判断できない) 14.1%
学校行事・課外活動は充実していると思う。	よく あてはまる 14.4%	やや あてはまる 35.1%	あまり 当てはまらない 22.7%	まったく 当てはまらない 15.5%	わからない (判断できない) 12.4%
学校行事・課外活動を通してさまざまな経験をしているようだ。	よく あてはまる 16.5%	やや あてはまる 32.0%	あまり 当てはまらない 17.5%	まったく 当てはまらない 17.5%	わからない (判断できない) 16.5%
子どもは学校へ行くのが楽しいようだ。	よく あてはまる 46.5%	やや あてはまる 35.4%	あまり 当てはまらない 10.1%	まったく 当てはまらない 3.0%	わからない (判断できない) 5.1%
KIHSでは、良い交友関係が築かれているようだ。	よく あてはまる 50.5%	やや あてはまる 35.4%	あまり 当てはまらない 8.1%	まったく 当てはまらない 2.0%	わからない (判断できない) 4.0%
個人情報やプライバシーが守られ、人権が尊重されている。	よく あてはまる 49.5%	やや あてはまる 29.3%	あまり 当てはまらない 3.0%	まったく 当てはまらない 0.0%	わからない (判断できない) 18.2%
教職員から家庭への事務連絡はきめ細かく行われている。	よく あてはまる 53.5%	やや あてはまる 30.3%	あまり 当てはまらない 7.1%	まったく 当てはまらない 4.0%	わからない (判断できない) 5.1%
学費・奨学金など、事務局の職員は、適切に対応している。	よく あてはまる 67.7%	やや あてはまる 26.3%	あまり 当てはまらない 3.0%	まったく 当てはまらない 0.0%	わからない (判断できない) 3.0%